

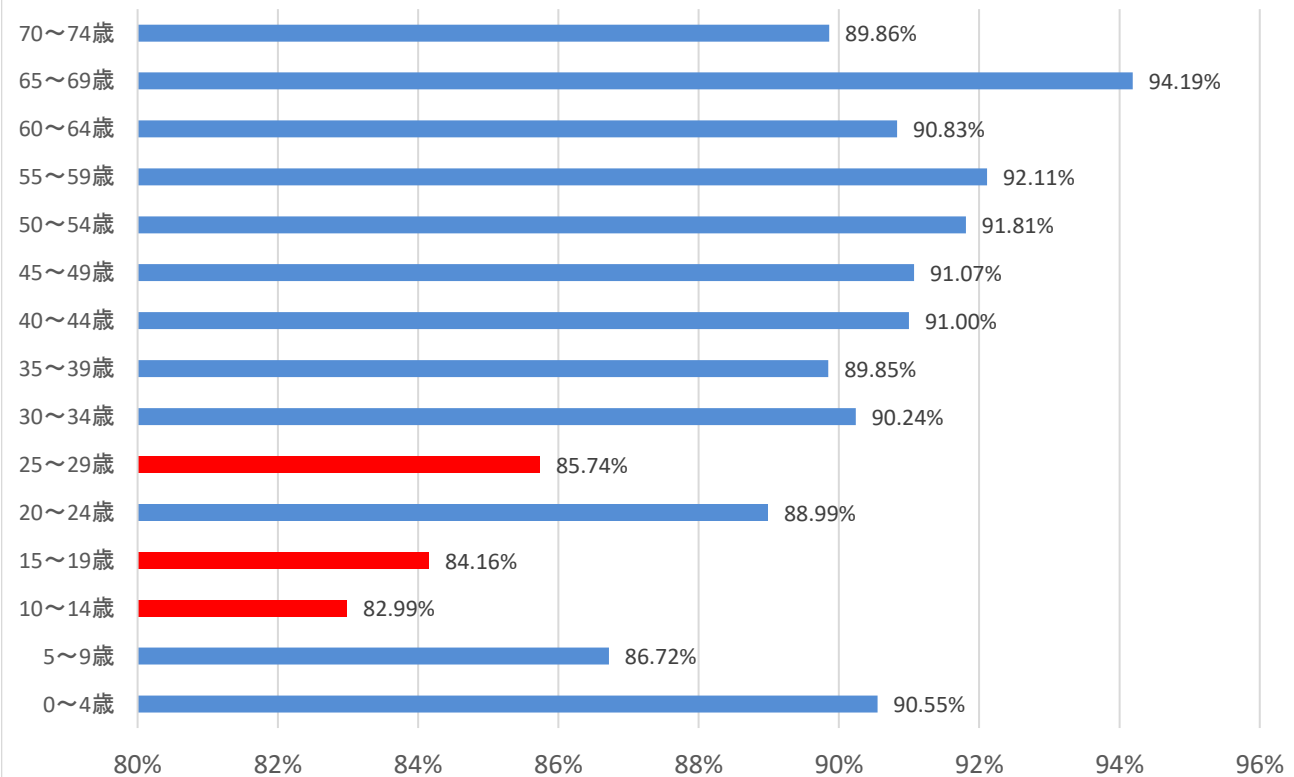
ジェネリック医薬品使用状況

共済組合では、データヘルス計画に基づき医療費増高対策の一環として、ジェネリック医薬品の使用促進を行っております。ジェネリック医薬品とは、先発医薬品の特許が切れた後に販売される先発医薬品と治療学的に同等であるものとして販売される価格の安いお薬です。

年齢別ジェネリック医薬品の使用割合を見てみると、全体の使用割合は89.82%と高い水準となっておりますが、若年層(赤いグラフ)の使用割合が低い傾向が見取れます。

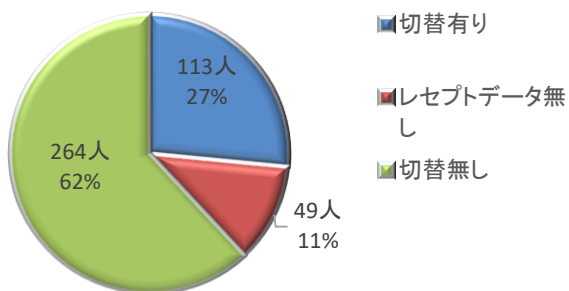
現在、共済組合は交付金を受けての厳しい財政運営となっており、医療費の削減ならびに目標値の維持のために引き続きご協力をお願いいたします。

年齢別ジェネリック使用割合(令和2年12月時点)

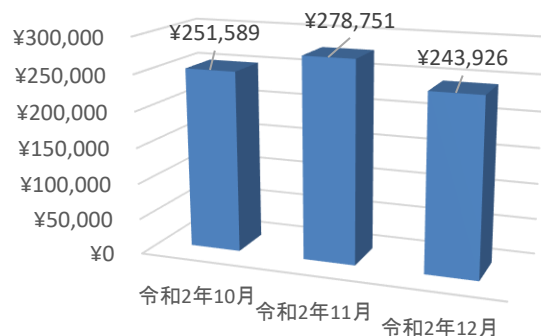


ジェネリック医薬品差額通知による切替状況と効果測定

発送対象者 426人



削減額



令和2年9月に通知発送後の令和2年10月から12月までの効果測定をみると、削減できた金額は月平均で約258,000円、3ヶ月の累計では774,266円となりました。

前年度よりも発送対象者及びジェネリックへの切替を行った方が増加したことにより、削減額も増加しております。しかしながら、発送対象者の約6割の方が未だに切替を行っていないことから、医療費削減並びにジェネリック使用割合の80%以上を維持するために、皆様のさらなるご協力をよろしくお願いいたします。

